

都立港特別支援学校（2年目）

【校長】 岡戸良雄	【生徒数】 現時点では 247 名 (職能開発科 59 名、普通科 190 名)	【学級数】 34 学級 (職能開発科 6、普通科 28)
--------------	--	------------------------------------



次の取組へ

【課題・改善】

○モデル授業の継承と用具の確保

今回実施した新しい授業内容を次年度以降継続していく方法と本事業の予算で購入した物品を活用した授業をより多くの生徒へ還元するための予算確保が課題となった。
⇒・授業内容の共有のために、動画でも確認できるように Teams を活用する。
・物品管理を徹底すると共に、次年度予算要望時、計画的に購入計画を立てる。

【2年目における実態・課題】

○酷暑の影響も受け、屋内外で生徒が身体を動かす時間、機会が減少している。

- ・体力テストの実施項目を規定に則った形式で実施することができる生徒は、全生徒 247 名中 100 名程度。全種目実施が不可能な生徒にも、教員が支援をして可能な範囲で項目を実施した。
- ・「運動・スポーツをすることが好き」「運動・スポーツの実施状況の割合」に上昇傾向（例：職能開発科 3 年 35.3%⇒72.8%）

目標 身体を動かすこと、始めてみよう！続けてみよう！

【成果】

○静的な運動として「ヨガ」、動的な運動として「テニピン」を導入した。いずれの運動も安全に、グラウンドや体育館といった広い場所でも活動が実施でき、運動機会、運動量を確保できるところにメリットがあった。また、教材や学習環境に工夫を加えることで、障害の程度が比較的重度の生徒も運動することができた。

○外部スポーツ団体との連携を通じて、用具の活用方法、他校での取組等、新たな情報を得て、授業づくりの視点を増やすこともできた。

【取組】

○運動機会、運動量の確保

- ⇒・ヨガの導入
障害の程度に関係なく、生徒と教員で狭い場所でも取組める内容の充実
- ⇒・新しいスポーツの導入
「テニピン」
「ブロッシュボール」

○外部スポーツ団体等との連携

- ⇒・がっこうヨガ推進委員会による授業
- ・日本ペガボール協会による授業

【取組（詳細）】

○ 運動機会、運動量の確保

・テニピン（球技ネット型）



手打ち型の簡易テニスとして、テニスを始めるための導入としても各所で活用されているニュースポーツ。ボールはバウンドするが、柔らかい素材でできている。

障害の程度が中・重度の生徒でも、段階的に場の設定を工夫したことで、分かって動ける場面が増え、結果、運動量も増えた。ネット型の醍醐味である相手との打ち合い（ラリー）ができた。

・ヨガ（外部講師による出前授業）

鼻から吸って、口から吐くゆっくりした呼吸の仕方を練習するための教材。体の力を抜いて、リラックスする感覚を自覚できる生徒が増えてきた。



○ 外部スポーツ団体等の連携



教員向け研修 外部講師
一般社団法人
がっこうヨガ推進委員会
代表理事 太田千瑞 氏

障害の程度に合わせたヨガ

- ・知的障害：同じ動きを繰り返す
- ・1つ1つの動作の間に切れ目（足踏みや手足ブラブラ）を入れる
- ・呼吸のみ、動作のみ、と分けたインストラクションにする
- ・逆模倣を行う
- ・具体物を用意する（ヨガイラスト、ヨガカード、スクイーズ、ケンステップなど）